

連携研究実施報告

2014年8月12日（火）、プロジェクトの塘研、難波研が連携研究「**桧原湖及び北部流入河川における底生動物群集、大腸菌群、水質の関係解明**」の第2回合同調査を実施しました。塘研では院生の大平、4年生の難波君、武田君の3名で調査を行いました。第1回の調査と同様に、会津川（上・下流）、大川入川、長井川（上・下流）、吾妻川、早稲沢、長瀬川の計8地点において、コドラート・サンプリングによる底生動物の定量採集を実施しました（図1）。第1回の調査から2ヶ月後の今回は、台風の通過に伴う大雨の影響により、大きな攪乱を受けたと思われる地点もありました。また、底生動物の組成は季節的な変化が見られ、前回よりも個体数が減少した種や、前回確認されていない種が出現しました（図2）。このような底生動物の季節変化と水質や藻類等との関係について注目したいところです。（文責 大平）



図1. コドラート（25cm 角）とサーバーネットを使用して底生動物を採集している様子（左が武田君、右が大平、難波君撮影）。



図2. 前回の調査では確認されなかったオオシロカゲロウ *Ephoron eophilum* Iwata の幼虫（若齢幼虫は河床間隙に潜行しているため、特定の時期にしか採集できない）。